

出前授業・模擬選挙	模擬議会・議員との交流	大学・若者グループ等との交流	【参考】 学校・民間団体が主体の取組
地方公共団体主体	他の期間(税務署)と連携	若者議会・こども議会	座談会等
小学生等	中学生	高校生	大学生・短大生・高専生
			特別支援学校生
			若者層(10~20代)

参考2 松本第一高等学校（長野県）（生徒数620人）※令和6年2月28日現在

実際の選挙を題材にした主権者学習・模擬選挙

■取組の概要

- ・ロングホームルーム（以下、LHR。）の時間を活用し、1年間かけて高校2年生を対象とした主権者学習を実施。
- ・実際の選挙を題材とした模擬選挙を行うことを見据え、年間で計画を立てて授業を行う。
- ・リアリティの追求を重視し、実際の選挙公報や備品を使っているほか、投票は任意形式としている。



実施概要

実施年度	平成28年度以降、不定期的に実施
対象者	高校2年生
参加者数	213名（令和4年度）
事業規模（予算）	なし

■実施の経緯

<取組を開始するに至った経緯、当初の問題意識>

- ・松本第一高校では、学年主任（または副担任）がLHRで取り扱うテーマを設定することができる。選挙権年齢が引き下げられた平成28年に、担当者が「1年間かけて主権者学習に取り組み、翌年に主権者となる生徒たちの政治的関心を高めよう」と考えたことを契機に主権者学習を開始し、以降その担当者が高校2年生を受け持つごとに実施している。

■実施の体制

<学校内の実施体制>

- ・主権者学習を担当する教員2名が講師を担当。模擬選挙当日は、学年担任（12名）が受付や立会人を担う。
- ・開票作業は生徒会選挙管理委員会に所属する生徒も参加。

<外部との連携体制>

- ・松本市選管から投票箱や記載台等を借用のほか、投票用紙等の提供。

■取組の効果・成果

- ・生徒の振り返りを見ると、政治的関心が高まっている様子が見える。
- ・投票しなかった理由として、「忘れていたから」といった回答もあったが、「考えがまとまらないまま投票するのは失礼だと思ったから」等、考えた末に棄権した生徒もいた。投票する、しないにかかわらず、主体的に考えて行動している様子が見受けられ、主権者学習が学びにつながっていると実感した。



<これから取組を始める団体へのメッセージ>

主権者学習は、未来の主権者となる高校生が日本の将来を考える第一歩となります。教員が一生懸命に取り組みれば、生徒も前向きに取り組み、真剣に考えてくれます！

★より詳しい情報はこちらへ

【松本第一高等学校 ホームページ】
<https://www.matsumoto1-h.ed.jp/>



■取組のステップとポイント（令和4年度の例）

① 事前準備

【4～5月】年間計画立案

- ・LHRのテーマを主権者学習に設定。
- ・実際の選挙時期に模擬選挙を行うことを念頭に、年間カリキュラムを作成。

【12月】模擬選挙のための準備

- ・市選管と打合せを実施。また、校内で模擬選挙管理委員会を発足。

<主権者学習の流れ>

- ・6月 主権者学習①（LHR1コマ約1時間で実施）
主権者学習の目的と参院選の概要解説。
- ・7月 主権者学習②
参院選の結果、県知事選挙を解説。
- ・12月 主権者学習③
各クラスで選挙公報等を使って事前学習。

- ・2月 主権者学習④
模擬選挙の予告、
参院選の仕組みを
解説。

- ・2月 模擬選挙
7月に実施された
参院選が題材。

- ・2月 主権者学習⑤
模擬選挙結果報告。
模擬選挙ワークシート記入・集計。

- ・3月 主権者学習⑥
主権者学習のまとめ。

模擬選挙の詳細	
・期日	2月7日(火)
・時間	8:00～ 8:30 12:00～12:30 15:45～16:15
・場所	多目的ホール
・投票方法	受付 → 県選挙区投票 → 比例投票 (実際の投票方法と同じ！) 「また直前に確認しよう！」

この1年間、主権者学習で色々なことを
思い、感じ、考えたはずだ！！
↓
大事なのは…
↓
行動に移すこと！！

**君たちの世代
君たちのこどもの世代
のために行動できる
主権者になってくれ！！！！**

主権者学習のまとめのスライド抜粋

- ・主権者学習を行う前後で政治や選挙に対する考えがどのように変化したかを考えるワークシートを記入してもらい、最終回の授業や学年通信で紹介している。

② 取組実施

【ポイント】

- ・実施日は模擬選挙日から逆算して設定し、模擬選挙で主体的に考えて投票行動を取るために必要な項目を網羅できるように年間のカリキュラムを組み立てている。

【ポイント】

- ・親しみのある教員が講師となることでより親身になる。選挙をより身近に、より簡単に感じてもらえるような分かりやすい授業を心がけている。
- ・投票所の写真等、教科書には載っていない情報を紹介しながら授業を行っている。
- ・政治的中立性を担保するため、政策に関する担当教員の考えは発言しないようにしている。
- ・模擬選挙にリアリティを出すため、生徒全員を並ばせて一斉に投票させるのではなく、朝、昼休み、終業後の時間に生徒が任意で投票所に出向いて投票する形式としている。
- ・投票そのものが大事なのではなく、投票に至るまでの思考プロセスや結果を見た際の所感が大事であることを繰り返し伝えている。

③ 実施後

主権者学習通信 2023年3月9日
2学年

主権者学習全体を通じての感想集！！
1組

今回の主権者学習を通して、選挙本番までの流れや、投票する人物や政党を選ぶにあたって難関すべき点や、国にとって有益になると思える政治を吟味する大切さを改めて実感することができた。今回の模擬選挙を通して学んだ一番のことは、たった一票の差でも国や国民にとっては大きな差ともなりうる選挙では、個人各々の熟考ゆえの判断が非常に大切だということだ。これからの選挙においても、今回の学習を十分に活かしていきたいと思う。

今までは選挙なんて関係ないと思っていたから、そこまで深く考えるということにはなかなかったです。もうすぐ主権者となる私たちにとっては、とても身近で考えなければいけないことだと思った。自分の一票がその選挙に反映されていると思うと、意味が深いなと思った。選挙に行く＝自分の考えを持っていると思うから、今後選挙に参加していく時に公約を見て投票に行こうと思った。